



草津市立草津小学校 学校だより

—学校教育目標—

確かな学力を身につけた

心豊かでたくましい 子どもの育成

なでしこ



令和4年(2022年)8月30日

No. 12

令和4年度「全国学力・学習状況調査」を活かす(1)

校長 中村 真理子

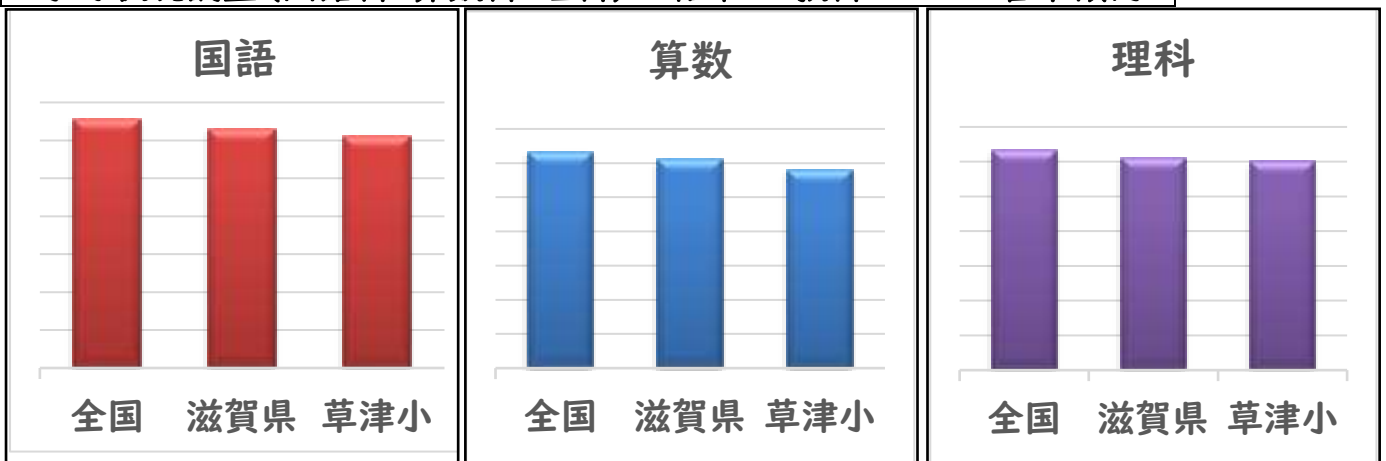
4月19日に6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施しました。本日、調査を受けた6年生には、その結果をお返ししたところです。教科は、国語・算数・理科です。

調査で測定されたものは、子どもたちの学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを十分踏まえつつ、今回の調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

調査結果を分析し、対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めています。学校全体として、課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 学力状況調査(国語科・算数科・理科)の結果 ~教科ごとの正答率傾向~



これまで6年生は、学力向上に向けて、こつこつと努力を積み重ねてまいりました。今回の調査では、「国語科・算数科・理科」の3教科すべてにおいて、全国・滋賀県の平均正答率には届きませんでした。全国・県の平均に近づくとともに、力を伸ばしてきました。中学校に向けて、今後の伸びに、一層期待しています。

各領域における成果と課題

国語科



◎公園の美化について話し合う会話文を読み、ごみ拾い、または花植えの問題点と解決方法を記述させる設問は、全国正答率が5割を切る中で、本校の正答率は全国を上回っています。
▲「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低いため、全体正答率は低くなっていますが、授業の対話的な活動の際に、何のため、いつまでなど、見通しをもって計画的に話し合い、結論まで意識つけることを大切にしている授業改善の成果が表れてきていると考えています。語彙を増やし、読書等によって、様々な文章に触れることも重視していきます。

算数科




◎果汁入りの飲み物の量を2分の1にすると、果汁の割合は変わるかという問題では、正解の「変わらない」を選んだ子どもが、全国的に少ないという分析がされていますが、本校の子どもたちの平均正答率は全国平均より上回っています。本校の子どもたちが、日常生活とリンクしながら考えることを意識できるようになってきたと、とらえています。
▲全体として、答えを出す道筋を説明し、論述する力に課題が見られました。記述式問題の全国正

答率は、60.2%。本校の平均正答率は54.2%です。本校でも、課題克服に向けて、授業中、子どもが考え方を説明する場面を増やしていますが、さらに鍛えていきます。

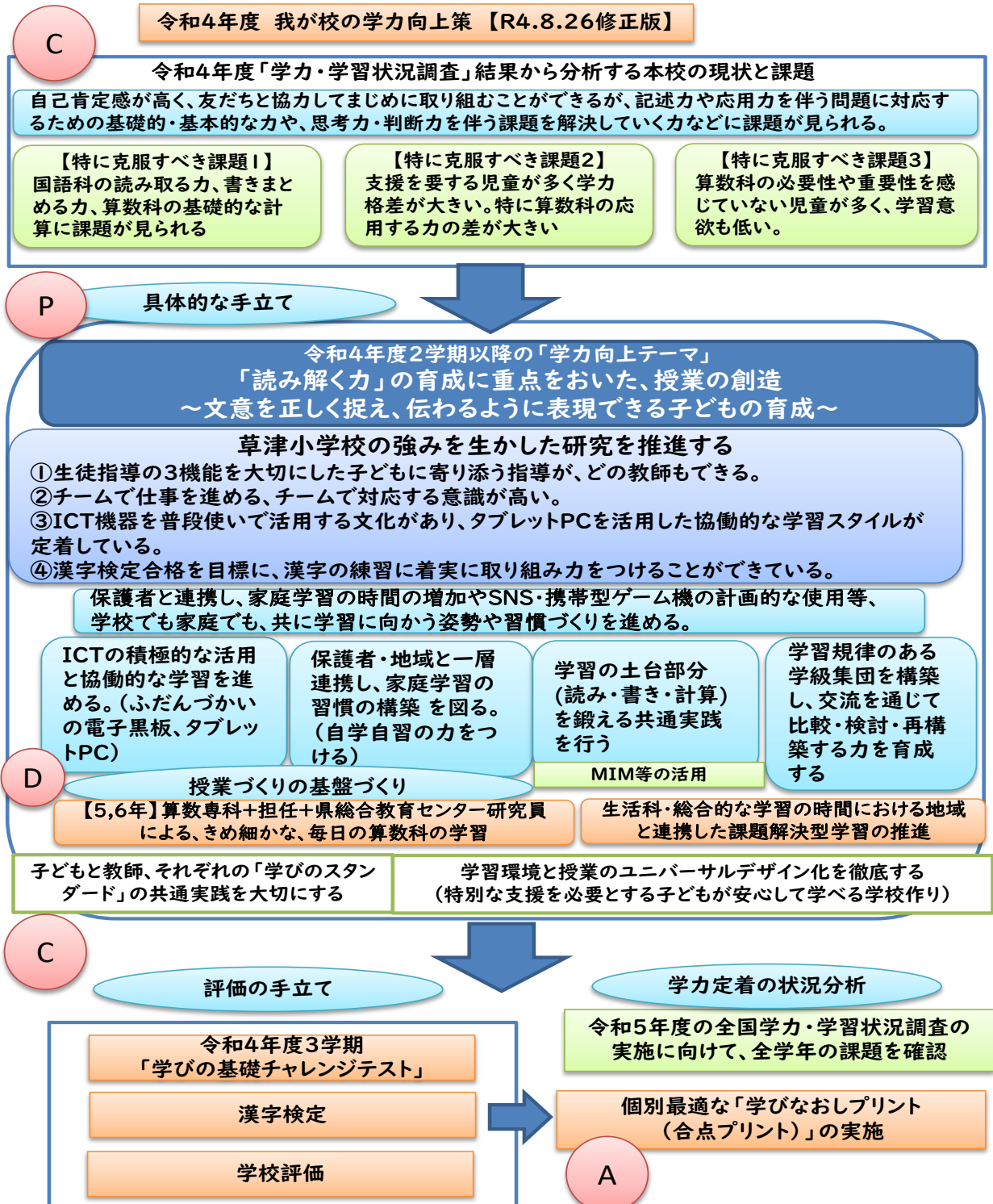
理科

◎チョウやトンボの幼虫と成虫が、何を餌にしているか分類した表が掲示され、その資料を踏まえて別の昆虫の餌についても調べていく際に、ふさわしい着眼点を選ばせる出題がありました。本校の平均正答率が全国を上回っていることから、新しい学習指導要領が求める「問題を見出す」とう、過程そのものを問う学びが、積みあがってきているととらえています。

▲実験した結果に対して、自分でグラフを作るなど、実験の予想を立て、経過や結果を自分なりにまとめる経験等を積み上げることで、自分で課題を解決する力を高めていきます。



2.課題克服に向けた「今後の学力向上の取組」



◎上図は、本校ホームページ(トップ画面右側のバーナーにも掲載しておりますので、ご覧ください。

◎令和4年度「全国学力・学習状況調査(児童質問紙)」の分析については、次号でお知らせします。